

令和5年度 江戸川区立清新第二中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	人間尊重の精神を基調として個の伸長を目指すとともに、人とのかかわりとおして豊かな人間性を培うことや、魅力ある教育活動とおして確かな学力の定着と豊かな心の育成を図る。	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・生徒が登校したくなり、夢や目標がかなえられるような学校づくり。地域コミュニティーの核となる学校づくり。 ・個の伸長を目指し、確かな学力を身につけ、豊かな人間性を培える生徒。 ・反省する謙虚さ、前向きな思考を持ち、専門性の向上、社会人としての常識を備え、魅力ある授業を構築できる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>タブレット端末を利用した効果的な授業づくりを課題とし、研修した結果、生徒の深い学びにつなげることができた。今後も研鑽を積み、さらに対話的で深い学びを目指す。 <課題>対話的で深い学びをしっかりと基礎学力につなげていけるよう、創意工夫する必要があり、今後の課題とする。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・誰一人取り残さないための学力向上アクションプランのもとに学力向上を目指す	・週末テストの実施 ・KGP(家庭学習プロジェクト)の実施 ・ICT機器の活用やユニバーサルデザインの考えに基づく授業改善	・各学年毎週1回。80点以上合格率8割を目標。表彰あり ・毎日2ページを目標とする ・学期に1回指導案(略案)をつくり、管理職や教員同士で助言	A	A	週末テストにおいては、多くの生徒が合格を目指して取り組み、合格者も8割を超えることが多い。 ・KGPの取り組みに対し学期に一度表彰を行った。8割以上の生徒が、自分自身のために毎日一生懸命に取り組むようになった。今後も生徒の努力に対し、何らかの形で成果を称えるようにしていきたい。 ・指導案(略案)を作成させ、管理職による授業観察を適宜行っている。また、教職員にも授業観察を呼び掛け、数名の教員が、若手の授業力向上のため観察・意見交換を行った。	A	毎日コツコツの学習に励むことは、とても良い取り組みだと思ふ。また、生徒の努力を表彰として称えたことは、今後の励みにもなるので続けてほしい。また、人材育成に関しては、どの社会においても大切なことなので、たくさん若手を丁寧に育ててほしい。	今後も、KGPに限らず、生徒の努力を目に見える形で称えることは継続していく。また、若手教員が増えている状況で、しっかりと人材育成がなされるように、主幹や主任教諭に助言する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書館の教科ごとの活用 ・学年ごとに行う「お気に入りの本のポップづくり」「おすすめの一冊」等の取り組み ・図書室の積極的な利用 ・ピブリオバトル(本の紹介)の実施 ・書籍やインターネットを利用して、興味のある事柄を調べ、紙面にまとめる。	・各教科ごと年5回実施 ・読書科においてポップづくりを年3回実施 ・図書館利用者と冊数を把握し、毎月の利用者と冊数を増加させる ・年1回各クラスで行う ・2学期が夏季休業中に行い、2学期に発表	B	A	全ての教科での使用はできなかったが、いくつかの教科で使用した。 ・すべての学年でポップを作成し、廊下に掲示。 ・新着図書のお知らせや支援員と協力し、本のレイアウト変更し、使いやすいため、使用者は増加した。 ・ピブリオバトルは3学期のみで実施 ・夏季休業中の宿題として取り組み、9月中に発表。けやき祭でも展示。	B	予定していた活動が、一部出来なかったことに関しては残念に思う。しかし、生徒の作品を見たときに、すべての作品が、よく考えられ、工夫がなされていた。今後も生徒の表現がよく見えるような作品を期待する。	来年度はもう少し探究的な活動を多く取り入れていきたい。また、本に触れる機会を増やすために、引き続き授業での使用や図書室の整備、新着図書の充実を図る。
	<放課後学習教室の充実> ・放課後学習教室(英語・数学)の充実	・放課後学習教室担当の外部業者との連携を強化し、学力の分析や具体的な支援を検討、実施する。	・学期に1回連絡会を開催し、検討する。	A	A	担当者と外部講師が連携し、苦手分野の克服や基礎基本の定着を図るための指導の工夫や改善を行っている。また、年間4回、メンバー編成をしたため、多くの生徒に活用させることができた。	A	塾へ行けない生徒や苦手意識の強い生徒にとってはありがたい取り組みだと思ふ。	来年度も少数精鋭で学習を見てもらい、その生徒にとって充実した時間となるように、編成を考えていきたい。また、外部講師との連携は今まで以上に強化する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業における補強運動の充実 ・昼休みの外遊びの奨励 ・マラソン大会の実施	・準備体操後の補助運動を種目や学年を考慮し実施 ・昼休みの校庭使用呼びかけ。 ・12月に予定している「マラソン大会」に向けての継続的な体力向上の取り組み	・毎回の授業における補強運動 ・毎日の呼びかけ。雨天時はサブアリーナ開放も検討 ・マラソン大会に向けた練習の充実(2週間前から)	A	A	・補強運動については必ず行っている。基礎体力の増加につながっている。 ・校庭で走り回る生徒が増加した。 ・多くの生徒がマラソン大会の練習に参加し、出場した生徒は全員完走を果たした。	A	マラソン大会は、参加した全生徒が完走し、本当に頑張っていた。子供の体力は課題が山積しているが、ひとつひとつ解決して行きたい。	今後も体力向上につながる取り組みを模索し、体を動かす意義と楽しさを伝えていきたい。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の実施・充実	・過去2年間の研究成果を元に、ユニバーサルデザインの考えに基づく授業づくり、学級経営を確立させる ・エンカレッジルームの柔軟な活用を、担当教員中心に考えていき、不登校生徒の教室復帰を図る ・臨海青海特別支援学校との直接、間接交流を充実させる	・2学期までに取組結果をまとめ、学校として統一した取り組みを確立させる ・6月までに対策を考え、実施、見直しを繰り返す ・行事での直接交流を中心とし、個に応じた対応を考える	A	A	・ユニバーサルデザインを意識した授業を展開している。困り感の強い生徒がいるたびに、特別支援委員会等で見直しを行った。 ・2学期より、2名の別室指導支援員を配置したことで、エンカレッジルームへ登校できるようになった生徒が増加した。 ・今年度は間接交流のみとなった。学年だより等で交流した。	A	ユニバーサルデザインに基づく授業づくりや教室環境の整備は、今後も見直しをしながら発展させてほしい。全生徒の居場所のある教室づくりを推進してほしい。また、今後も別室指導支援員の配置をお願いしたい。	ユニバーサルデザインに基づく授業づくりや教室環境の整備を引き続き行う。また、別室支援員を増やし、いつ登校しても指導が受けられる体制を整え、出来る限りの教室復帰を目指す。生徒が気持ちよく学校生活を送ることができる環境を整える。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・不登校対策担当教員を中心として、不登校生徒へのかかわりを強く保持できるように努める。また、新規の不登校生徒を出さないように予防策を検討、実施する。 ・話やすい先生への相談週間の実施 ・hyper-QUを活用し、過ごしやすいクラスづくりの実現に努める	・年間を通して、対策の実施と見直しを図る。週1回不登校対策委員会を実施。 ・年間5回の相談週間を実施 ・6月にhyper-QUを実施し、結果と現実を分析して、2学期初めから対策を実施	A	A	・不登校になりそうな生徒もあが、エンカレッジルームの有効的な活用等で、早期対応を行うことができていた。 ・生徒が相談しやすい環境が整ってきていると思われ、有意義な活動となった。 ・hyper-QUを分析するにあたり、講師を招聘し説明を受け、より深い分析を行うことができた。結果をもとに対応し、居心地の良い教室環境を整えている。	A	エンカレッジルームの柔軟な活用は効果的だと感じている。不登校生徒への対応はこれからも大変なことと思うが、丁寧な対応を心がけてほしい。	来年度もエンカレッジルームの充実や平日頃から相談できる環境づくりなど、未然防止、早期対応に力を入れ、生徒が気持ちよく学校生活を送ることができる環境を整える。
	<特別の教科 道徳の充実> ・特別の教科 道徳の充実を図り、健全育成を推進する。	・考え、議論する道徳を目指し、授業の工夫・改善を図る。	・全員が年間1回の研究授業を行い、管理職やほかの教員から助言を行う。研究の成果を冊子にまとめる。	A	A	・1学期に1回目の研究授業を行い、互いの授業を見学することで、様々な意見交換をすることができた。地区公開講座と小中連携で小学校の先生や保護者と道徳について話し合い、授業改善のための有意義な活動となった。	A	多様を求められる社会において、自分の意見をしっかりと、発信することが大事になってくるので、道徳の価値観は高くなっていくと思う。そのような生徒の育成をお願いしたい。	特別な機会を設けずとも、常に授業改善を心がけられるように指導・助言を繰り返していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・普段の様子をホームページ等で発信 ・土曜授業だけに限らずすべての行事等も公開 ・地域のボランティア活動への積極的な参加	・管理職、各学年の担当による、毎日のホームページ更新 ・4回の土曜授業と行事をすべて公開。その他にも、地域の方等には随時公開(案内) ・地域の活動があることに学校で紹介し、ボランティア等での参加を促進	A	A	・ホームページで生徒の様子などを公開し、生徒の努力を伝えた。 ・学校公開では多くの保護者や地域の方にご来校いただいている。随時、個別にも対応した。 ・地域の運動会にボランティアとして参加。今後も積極的な地域への参加を促す。	A	地域からも生徒の協力をお願いし、学校と地域がより一体化できるようにする。それにより、よき交流ができるようになるとうい。	ボランティア活動等は、どんどん参加させていきたい。また、学校行事や学校応援団の活動へは益々の協力を要請していきたい。それによりお互いの交流を深め、地域で支え合う学校を目指していきたい。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・土曜公開授業時に学校評議員会を開催 ・行事等も積極的に足を運んでいただけるように案内する ・普段の様子をホームページ等で発信	・年間3回評議員会を実施 ・行事毎に案内状を送付 ・管理職、各学年の担当による、毎日のホームページ更新	A	A	・学校評議員の方にご協力いただき、3回実施。 ・全ての行事や公開授業は案内状をしており、多くの方に足を運んでいただいている。 ・普段の様子や宿泊行事などもホームページで詳しく公開している。	A	行事や授業参観等に、多くの学校関係者が足を運び、地域全体で学校を盛り上げていきたい。	これからも継続して発信していく。また、学校評議員や地域の方などに、もっと学校に関わっていただけるように、場や機会を設ける。
	<学校における働き方改革プラン> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日を設ける ・業務の見直しを図る研修の実施 ・業務、部活動の均等化を図る	・学期に1回(定期考査2日目)と設けられる日を検討 ・1学期中に研修 ・主幹を中心とした業務の割り振り、見直し(年2回)	A	A	・定時退勤の日に限らず、常に早く退勤できるように声掛けを行った。 ・業務改善に向けた研修会を実施。会議の進め方や業務のスリム化、ペーパーレス化、採点ナビの導入等、改善を進めた。 ・主幹教諭に指示し、業務の割り振りや見直しを検討し、来年度から実施する。	A	時代に即した方法業務の改善を行い、教職員の業務負担を少しでも減らし、生徒と向き合う時間を、できるだけ多く確保してほしい。	来年度は重要書類等以外は全て電子での配信を行い、徹底したペーパーレスを実現する。また、授業等でもタブレットをうまく活用し、紙を減らす。また、定時退勤の設定せずとも、早く退勤することを旨とし、業務の改善や縮小を模索する。